慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	士君子の競技 ; 索逐の総選挙 ; 刺客安應七 ; 新高山頂の天文台 ; 身延山新貫主入山 ; 謡曲の流行
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.2, No.4 (1909. 11) ,p.291(55)- 300(64)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	時評
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19091101-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

呉れ、第三に醫學の發明をした者にやつて呉れ、第四に文學の立派な著述をした者にやつて呉れ、第五に世界の平和事業に功勞の著しい者にやつて貰ひたい、斯う云ふ遺言であります。それに依て賞金を受けた者で著しい者はエッキス光線の發明者の獨逸のレントゲン、それから化學の發明者では和蘭人でホッフと云ふ人があります、是は私は能く知りませぬ、醫學では昨年日本に來遊しました黴菌の發明者コッホ、文學では英國人のキプレン、平和事業で賞金を貰ひましたのは、日本の爲に盡力して貰つた彼のルーズベルトであります。是は當然受けて宜いのであります、話は長くすればいつ迄お話して居つても盡きぬのでありますがどうぞ此賞金を受けるやうな人が此中からも出られんことを偏に希望するのであります。

十日まで私は役所に居りませぬがそれからあと三四日十四五日頃から居りますから、經濟問題、社會問題に關する展覽所を開いてありますから、どうぞ見に御出で下さることを願ひます。前田と云ふ人が其方の係で説明者でありますから、其人を尋ねて御出でを願ひたい、皆説明の札を付けてありますから、それを御覽になれば大抵分りますが、矢張り説明して貰ふ方が便利でありますから……。

（拍手）

時評

○士君子の競技　高橋誠一郎

戲に生れて戲に逝く、人生五十年畢竟するに戲中に悲喜して再び大自在の手に歸するのみ。況んや運動競技の如き戲中の更に戲なるもので、敵と分れ味方と賴みて彼我相攻め相鬪ふ其樣は殊勝にも亦可笑しき次第であるが戲中自ら眞あり、浮世の事一切萬事悉く皆空の戲と觀しながら、尚ほ其間に處して眞面目の態度を失はざるこそ達士の本分である。一校一塾の選手と稱せらるゝ者が學業の餘暇專心一意腕を鍛へ技を練りて敵に數歩を先んぜんとするは勿論のこと、一校の責任を雙肩に擔つて立つ光榮ある選手を助けて其功を全ふせしめんとする聲援隊が熱情溢るゝの餘、吾を忘れて狂奔するも亦敢て責む可きの擧でないのみならず、反つて社會に對しては體育奬勵の一端ともなり、學校內では學生の一致團結を鞏固にし、選手にとりては其間自ら品性修養の一助ともなる可きことゝ惟ふ。洵に汎く勸む可きは運動競技の道であつて冷に之を觀る者の眼には時に或は愚か狂かと怪まるゝまでに熱中奔走するも亦何等譏む可きの點有るを見ないのである。

然れども學生の運動競技は田夫野人のそれと其趣を異にせざる可からず、學生は須く士君子の態度を忘れてはならぬ。競技に際しては殊に君子人の坦々蕩々たる態度を保つ可く、決して小人の悵々戚々たるを學んではならぬ、勝つて驕らず、負けて憂へず、畢竟戲中の戲と觀じて勝敗利否物の數ならず、我は唯だ吾が最善の力を盡して戲中の眞を失はざりしに、滿足しなければならぬ。

遮莫、學生に自ら上品下品の別がある、少くとも現下の狀態では一般學生を律するに悉く士君子を以てすることは出來ぬ。學生本來の面目を忘却し學事を等閑にして徒に運動に熱中し三年の課程を六年に履修する者あるとは暫く措き、或は試合出陣の目的を以て規定の課程を卒へながら、猶は

種々の名目を附して籍を母校に止め、或は自校のチームを強大ならしむるが爲に特に對抗試合の前に際して無賴劣等の學生にして唯だ其技術の一點のみ優れたるものを學校當局者と馴合つて自校に引入るゝものなど都下に自ら高く標榜しつゝある學生中に其風ありやに聞いてゐる。何れも運動界の弊風として、吾人の常に苦々しく感ずる所であるが、近來更に此等の惡習が學校經營を以て一種の商法に看做す似而非教育者に由つて益々助長せらるゝを見る樣になつたのは言語道斷の次第である。神聖なる可き運動も彼等の眼より見れば唯だ之れ顧客の注意を惹く可き一種の廣告たるに過ぎざるものである。

人間は最も自ら飾るに巧みなる動物である。然しながら人は其七情の激する時最も好く其本質を暴露するものである。激するは尙ほ浴するが如しで、粉黛燕脂皆流れ落て自然の儘の相貌を殘すこそ面白き次第である。常には深く世に知られざりし一塾一校の學生の品性氣風も往々敵を外に求め彼我雌雄を決せんとする運動競技に際しては遺憾なく發露して、其間に處する一擧一動の裡に坐ろに平生の主義主張さては之が薫育の任に當れる人物の高風をもそれとなく忍ばれるものもあれば、或は其行動の粗野亂暴校風の廢頽も推測られて學校營業の弊さこそと思はるゝもあるのである。或は學校の應援隊が白刄を擬して會場整理の任に當る者に迫り、脅嚇狀を審判官に送つて味方に利あらしめんとし、翌日の試合に好地位を占めんが爲に、數千隊を成して、近隣に夜營するが如きことは一片架空の談にあらずして曾て實在したる事實として確聞するの大遺憾を有するものである。愈よ熱して愈よ士君子の面目を失はず、其間自ら高風の掬す可きものを俟つて初めて對抗仕合は其功果を揭げ得可きである。古へ封建の武士は常に戰場に於て好き敵と組まんことを祈つた。假令其武術腕力のみが勝れたからと云つて名もなき下司下郎と槍を合はすことは決して其潔しとする所でなかつた。明治の學生亦此種の見識を失はざるを要す。對抗仕合元より可なり、運動競技大に歡迎す可し、然しながら仕合せんとするものは須く相手を選ばなければならぬ。共に相競ふて以て運動の粹を表し得可きものならんには何をか辭し何をか否まん、喜んで正々堂々此上相戰ふ可きである。而して吾人は其最善の力を盡して後の勝敗利否は元より問ふ所にあらず、互に手を握つて破顏一笑更に後日を期して相別る可きものである。

氣品の泉源智德の模範を以て自ら任ずるものは須く相手を選んで而して後、戰ふ可きである。如何なる世間の議論あるを問はず。俱に共に相戰つて運動の精華を發し可きものを得るまでは斷じて戰ふ可らずである。新聞紙の煽動に乘じて心にもなき敵を迎へて戰ふが如きとは元より非である。

○索遜の總選擧

「貧民階級は當に其上に未來の教會が建設せらる可き礎石である」とはフエルジナンド、ラサアルが絶叫した有名なる一語である。マルクス黨の領袖、「新時代（ヂーノイエーツァイト）」の記者たるカウツキーは先年墺都維也納に開催せられた社會主義者大會に於てこれに附言して曰く「貧民階級は啻に其上に未來の教會が建設せらる可き礎石たるに止るものでない。又以て爾今反動の潮が轞轄とこれに打寄せては碎かれ、軈て細沫と爲つて飛び散る可き礎石である」と。獨逸政府の社會黨抑壓策は見事下層階級の大礎石の爲めに破壞せられた。索遜王國總選擧の結果は正に此事實を示してゐる。卽ち同國に在つて從來僅に一名の議員を出すに過ぎなかつた社會黨が今年俄に二十二名の多數を當選せしむるを得たのは、彼の英國の勞働黨が一千九百年の總選擧に於ては二名を出すのみであつたに反し一千九百〇六年には一躍して三十名の當選者を出したるにも優つた社會主義の勝利と謂はざるを得ない。

英國の自由黨內閣が社會主義的の增稅案を掲て保守的分子を以て滿たされた貴族院と大爭鬪を開始しつゝあるに反し、獨逸帝國が本年過大の海軍擴張に因て著しく膨脹した歲計に充つるが爲め議

會を通過せしめた增稅案は主として負擔を下層社會の民衆に及ぼさしむ可きものである。同國の社會黨が俄然其勢力を增大し得たのは職として之に由るものである。社會主義的政綱を蛇蝎視する保守的分子が勢力を振ふと愈よ大なれば、社會黨は愈よ其勢力を扶殖す可き機會を增すの理である。

獨逸帝國內に於ける社會民主黨が一千九百〇七年の總選擧に大々的失敗を招き、一千九百〇三年には三百一萬四百七十二票に對し八十一名の議員を出したのが俄然減じて二百二十五萬八千九百六十八票に對し四十三名に減じたのは蓋し政府の取つた强壓手段と同國々民を醉はしめた海軍擴張熱との爲めである。社會主義に對する帝國主義の勝利であつた。大學の講壇から社會主義を鼓吹したシモーラ敎授は一轉して海軍擴張を唱導するに至つた。大海軍國の出現、全制海權の掌握、世界政策の遂行、獨逸國民は斯くの如き光輝ある希望に心醉してゐる。然しながら斯般の希望が主として自家の財嚢を犧牲として到達せざる可らざるものと爲つた時、中產以下の獨逸國民は必ず其醉心地より醒覺するに至る可きである。明一千九百十年の總選擧には社會民主黨は捲土重來の勢を以て選擧場裡に立つことと想ふ。索遜に於ける社會黨の勝利は卽ち此傾向を豫知せしむるものである。

社會主義の議論を普及せしむるものは社會主義者以外の力である、社會主義反對者の力である。佛蘭西の社會主義者ジャン、ジオレーが反者の議論を遮つて「否々、此宵は我に答へ給ふな、唯だ周圍の事物に眼を開き耳を藉へ給へ。我等が將來を夢みて論議しつゝある間に、生けるもの、存するもの、皆悉く刻下の歡喜を享けて、晴朗寂靜なる夜の移り行く時々刻々の快適に我を忘れてゐる。農夫は三々伍々群れ集ふて畠中の集會所へと步を運んで居る、彼等は行く〳〵鄙唄の節を合せてゐる。夢から驚き醒めた蛇（くちなわ）は暫く戰慄してゐたが、軈て復た判叢の鎖した秘密境に甘睡の夢酣である。刈入後の麥畑や、露の乾いた草原の中に生殘つた哀れな蟋蟀が尙ほも淋しく秋の調を奏してゐる。彼等は冬の霜に羽も髥も凝るまで現世の歌を續けて行くのであろう。枯草に放つた野火は草原の中央に擴つた。そして月の光が其輝煌を蔽ふてこれを和けてゐる、丁度地上の精氣が焰を放つて天上の神秘な光と混じた樣に見える。宿なしの野良犬は時ならぬ車の音に吠へてゐる。車は一疋の小驢馬に曳かれて、破れ提灯の火影淡く、徐ろに道を進めて來る。栗林の闇に瓜を磨ぐ小面憎い梟は凄愴な聲を發して小鳥を叱してゐる。實つた栗實が熟み破れてゴロ〳〵と小さな溪に轉り落ちた、可愛らしい青蛙が泉の傍で鳴いてゐる。天は輝いて地が歌つて居る。萬有は唯だ其儘の姿ながらに、一切の歡樂を籠めて居る、卽ちそは己が實相の儘に社會主義的である。」と說いてゐる。極端なる監督主義及び其反動として起つた極端なる自由主義孰れも皆社會主義を促進するの因である。社會の實際を通觀するに如何なる時代、如何なる事情の下に在つても社會主義が絕對に其效力を失つたことはない。換言すれば一の人間社會も如何なる時代、如何なる事情の下に在るとを問はず社會主義の感化を受けずして存在し得たものはない。唯だ時勢の變遷、社會關係の推移に伴れて、或は伸び或は縮むに過ぎざるものである。

獨逸帝國の執つた極端なる保護政策並に極端なる海軍擴張の財源として增徵せらるゝに至つた消費稅は窮極勞働者の負擔を重からしめ之れが爲めに先づ其聯邦の一なる索遜に於て社會黨の氣勢を高めしものである。吾人は重ねて謂ふ。社會主義の議論を普及せしむるは社會主義者以外の力に依るものである。社會主義者の言動を欲制するは無用の愚策である。特殊階級の見地を棄て、同國民の物質的倫理的及び精神的利害を標準として統治せらるゝ國家には社會主義の議論は聞として聞へざるに至るの常である。

○刺客安應七

歷史の祖は凄愴なる筆致を以て刺客を詩化してゐる。魯人曹沫、吳人專諸、晋人豫讓、軹人聶政

衛人荆軻孰れも皆悲壯なる亡國の歷史に更に悲烈なる調を添へてゐる。荆軻が風蕭蕭兮易水寒、壯士一去兮不復還の一句は當時座に在るの士をして涙を垂れて涕泣せしめたのみならず、後世幾多慷慨の士をして所謂「瞋目、髮盡上指冠」さしむるものである。刺客安應七、彼れも亦韓國の亡國史に一種悲痛の趣を加ふるものである。然しながら時勢は進步した。後世の史家は恐らく太史公に倣つて「其立意較然不欺其志、名垂後世、豈妄也哉」の筆鋒を以て彼れ安應七を頌することはなかろう。彼の愚策は當に韓國の衰滅を早からしむる所以である。

之に引換へ彼の手に倒れた伊藤公の死は光輝あるものである。公に對する生前の非難攻擊は悉く此一死を以て償はれたるの觀がある。洵に「戰勝の名譽を荷つて其額に血染の月桂冠を戴く者は幸福である。」彼が最後の一默は雷の如き響を傳へてゐる。

○新高山頂の天文臺

土耳古新高一萬二千六百尺の絕頂に二週の觀測を爲して十一月十一日歸京した一戸學士は新聞紙上に於て切りに新高山巔に天文臺を新設するの利を說いてゐる。

世は次第に實利主義に傾いて行く、一切の科學の價値も其人類に與ふる福利の點よりのみ測度せられんとしてゐる。サー、ジイ、カーネヴオル、リユイスの謂つた如く「天王星の週期や、土星環の性質や、乃至木星の衛星の隱蔽や等しく皆彼の天狼星が太陽と共に昇ること、並に大熊星が北方の位置の如く全然人事と沒交涉なるものである。」蓋し實利主義者流の眼には近世の天文學は專ら人間の福利の到達する能はざる邊に知識の擴張を計るものとして映ずるの外はあるまい。然しながら最も無用迂遠なるが如く見ゆる學問は反つて吾人人類に必要不可缺なる萬般の知識の基礎を與ふるものである。天堂の諸物體は一の響を發して倶に調和せる合奏を演ずるものなりとの美しい夢の樣な詩の樣な思想から太陽太陰及び諸遊星の環行整一の運動を數へたピサゴラス一派が如何に間接に今日の文明に貢獻する所多きやは蓋し彼等實利主義者流の測知し能はざる所である。

中央氣象臺すら尙ほ火星の衛を觀測す可き望遠鏡を有して居らぬ幼稚未發達なる我が斯學界に新高山頂の天文臺建設を期圖する一戸學士の希望は到底實現し得ざることと信ずる。然しながら是れ實に最も悲む可き絕望の一である。

○身延新貫主入山

日蓮宗總本山身延久遠寺の貫主に當選したる小泉日慈師は幾千の信徒に迎へられ遠光寺、昌福寺、善妙寺、實圓寺を經て愈よ十一月九日身延山に入山したとのことである。

吾人が想像に描いた身延山は日蓮宗の大本山として、昔に聞く靈山を其儘に見る靈地である。「寂寞無人の扉の內には、讀誦無經の聲絕えず、一心三觀の窓の前には、第一義天の月圓かなり。尾上の松の音までも、皆法の聲ならずや。落瀧津瀨の響も唯だ懸河流瀉の御聲にて、鷲の御山も餘所ならず。」洵に「滅後の弘經も正像末に次第して、今後五百歲」の時機に叶ひ、妙法廣宣流布するに至つた淵源の神聖境である可き筈である。然るに現實に觀る身延山は當に是れ法滅盡の有樣を現じた大魔境である。「但し貪財物、積聚不散、不作福德」僧侶は信徒の袖を曳いて一錢一厘の收入も多からんことを願ふてゐる。「婬妖濁亂、男女不別」の境は既に業に通り越して不遠慮なる自然主義の世界を暴露し、僧侶は比丘尼と手を携へて僧坊に茶店を開業し、守札の強賣を渡世としてゐる。如何に「若有聞法者、無一不成佛」と說き二乘闡提惡人女人總て成佛得道疑ひなき妙法蓮華經の功力でも之れは餘りに效驗あらたかに過ぐる樣である。當初の選擧に貫主に當選した伊豆の久保田老師が嚴く辭して入山しなかつたのも或は「設有是人、衆魔比丘咸共嫉之、誹謗揚惡、擯黜駈遣、不令得住」

の結果を廢れたものではなかろうか。

天臺、眞言及び其以前に傳來した吾國の佛教は孰れも皆貴族の宗教であつた。鎌倉時代に隆盛を極めた禪宗は武家の宗教であつた。新に現れた眞宗は新に社會に重きを爲すに至つた第三階級と結び、これが信奉を得て廣く行はるゝに至つた。日蓮宗は更に新なる社會階級卽ち第四階級の間に廣宣流布するに至つた。法華が最も卑俗なるはこれが爲めである。俗耳に入り易からしめんが爲めに高遠の教理を碎いて平易となすは元より可である。僧徒も或る點までは俗に碎けて宗徒に接近するも亦可である。然しながらこれが爲めに僧尼の品性品行までも墮落せしむるの必要は毫も之を認めないのである。末世の僧侶の中でも日蓮宗に屬するもの〻如く浮華輕跳扁々として俗世にあるを之れ努てゐるものはないのである。同宗の大本山身延の久遠寺は明に此風潮の同宗に漲れることを示してゐる。新貫主小泉日慈師は果して如何の穢を具し如何なる體度を以て一山一宗に臨まんとするか。身延の山は果して將來風の音、水の聲、自ら諸法實相の響を傳へて、草木國土悉皆成佛の靈地に歸り得るや否や。

○謠曲の流行

謠曲は一面から見ると行基及び良辨等以來の本地垂跡、神佛混合の說が詩となつて現れたものである。而して他面に於ては幼稚なる佛教の人世觀を以て王朝、源平及び其他所有る時代の傳說逸話を批判し解釋せんと欲した五山僧侶の努力である。更に其文章の上から見れば佛教の經典と盛唐の詩文と日本古來の物語類との三者を打して一丸としたものである。本地垂跡の說、神佛混合の舉は明治の初年一片の法令を以て全く跡を絕つた程不調和なるものであつた。彼の中樂の花傳に所謂神能の手は天照太神天の岩戸に籠居せし時、八百萬諸神の舞へる曲舞なり。男舞は世親菩薩の作りし俱舍論の舞の手なり。鬘は上界月宮の霓裳羽衣の曲なり。鬼形の舞は流砂除砂大王と伯太王との舞の手なりとの因緣を附して神佛二樣の起源の舞を一日六番の能に組込まんとせるが如き今日から見れば殆ど滑稽の沙汰であり。而して淺薄なる佛教の人世觀亦今日に於ては一顧の價をも有せざるものである。修羅の妄執、三惡道の責苦、流轉の境涯、佛徒の下した人生の批判元より幼稚の極たるを免れざるものである。紫式部の筆に活きて生れた六條の御息所や浮舟や夕顔や孰れも皆謠曲作者の手に生氣を奪はれてゐる。近松門左の治兵衛や忠兵衛が近松半二若しくは菅專助の手に殺されたよりも更に甚しいものがある。單に一の文章として謠曲を見る其價値は亦頗る小なるものである。謠曲作者は盛唐の華麗なる文辭を親み、白氏文集の如きは全く其藥籠中のものとなつたに反し中唐の雄勁沈痛なる語調は得て之を傳ふるとが出來なかつた、同じ室町時代の產物たる新葉集、新續古今集が古來の和歌の墮落たることを示してゐる如く、太平記が平家物語に比して數等素朴、簡勁、深酷の度を減じ其品質を下したと等しく謠曲は佛典、漢詩、和文の三者を混和せんとして混和することは能はざりし大失敗の製作である。

古の觀世太夫は自ら「月に嘯く瓢簞の聲」と詠してゐるが、今や都鄙到る所に吠ゆる迷路の、犬の樣な凄じい聲が聞へてゐる。謠曲は紳士の階級から婦人、學生の一團に及んで盛に流行の勢を呈してゐる。單純なる語調、間延びのした廻節、而して之に伴ふに太古原始の民の間に行はれた單調なる器樂を以てする謠曲は到底文明の世界に流行す可き音樂ではない。九郎、伴馬の老名手と雖も吾人に半日の歡を與ふることを得ない程謠曲は時勢に遲れてゐる。然るに其時勢遲れの謠曲は如何なる故を以て現時流行を來しつゝあるのであるか。理由は極めて單純である。吾人は一般國民が無學にして嚴正なる批判を謠曲に對して下すことは能はざると、紳士と稱するもの〻趣味低く到底謠曲以上に高尙なるものを求むる能はず、古雅なる謠曲を以て多少其下劣なる品位を維持せんと努るの事實に歸するものと信ずる。さるにても近來漸

く其徵を現し來つた青年學生の謠曲道樂こそ解す可らざる奇怪千萬のものである。

雜錄

戰時封鎖を論ず

小倉和市

第一章　封鎖の概念

戰時封鎖は之を細別するときは軍事封鎖と商事封鎖の二となすことを得可し。前者は敵の戰鬪力を破るが爲め作戰動作の一として行ふ所にして其目的は陸上の攻圍と同じく敵の根據地に對する交通を絕つにあり。反之後者は敵國に取りて重要の資源たる海上商業を杜絕し其戰爭繼續の資源を涸渇せしむるが爲め海岸一定の場所に對する船舶の出入を遮斷するにあり。然るに此兩者は時として分別し難きことあるのみならず其一種は自然に轉じて他の一種となることあり。且つ法律上に於ても封鎖されたる場所に對する交通を遮斷するの點に於て差異あることなく唯此兩者は（一）其主たる目的を異にする結果同一原則の實際の適用に於て多少の差異を生ずることあるの事實と（二）現今の所謂封鎖なるものは其の目的主として商業上の封鎖にあり從て本論に於て硏究する所も主として商事封鎖にあることを注意すれば足れり。故に予は戰時に於ける封鎖を次の如く定義せんとす。

戰時封鎖（以下單に封鎖と稱す）とは交戰國の一方が兵力を以て敵國又は敵の占領する港又は海岸と公海との交通を遮斷するを云ふ。

吾人は封鎖の意義を明瞭ならしめんが爲め次の區別に注意することを要す。

（一）攻圍又は戰時占領と封鎖との差異。前者の場合に於ける交通の遮斷は占領又は攻圍の當然の結果として行はるゝものにして交通の遮斷其ものは其本來の目的に非ず。然るに海上に於ては中立國は交戰國と等しく自由に敵國と交通するの權利を有するものなるが故に交戰者が戰爭の遂行に伴